

第11回目を迎える「葛飾図書館友の会ウィーク」開催(11月4日～24日)

参加団体も増え、バラエティーに富んだイベントが目白押し

特別講演会は太宰治から村上春樹までにふれ、映像文学館は森鷗外

中央図書館が開館した年から始まった『葛飾図書館友の会ウィーク』、今年は第11回目を迎えます。“図書館からひろがる！ ひろげる！”をテーマとし、図書館を利用する方々の輪を広げ、図書館の果たす重要な役割を再認識し、友の会および参加団体の活動の紹介や成果の披露の場。中央図書館の協力を得て、葛飾図書館友の会が主催する恒例のイベント。年々参加団体と参加イベントも増え、盛況な2週間になります。

今年も11月4日(月・休)から同24日(日)、中央図書館の「おはなしのへや」や2つの会議室、さらには展示コーナーなどを使用し、子どもたちを対象とした絵本の読み聞かせや素話・語り、わらべ歌や手遊び、手袋人形を使った演技、マジックショーなどを、一般来館者を対象としたリコーダー演奏、朗読会、語り、さらには手袋人形講座や友の会が毎月行っている多読講座、ナイトシアター、CD・DVDコンサート、隔月のキーワード読書会が開催されます。

また例年開催しているウィーク実行委員会主催の「映像文学館」と中央図書館との共催による「特別講演会」も行われます。既に参加団体や日程・会場なども決定し、参加団体は準備に励んでいます。

以下、友の会のグループや実行委員会が企画したイベントです。詳しいウィーク期間中のイベント内容は《第11回葛飾図書館友の会ウィーク 総合プログラム》をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

- | | | |
|------------|-----------|---|
| 11月4日(月・休) | 午後2時から | 「昔話を語ってみませんか？」 |
| 11月6日(水) | 午前10時から | 「手袋人形講習会」(事前申込制) |
| 11月9日(土) | 午前10時から | 「葛飾多読 LOVE・多読入門」 |
| 同 | 午後6時から | ナイトシアター『シェーン』 |
| 11月10日(日) | 午後3時30分から | 「おはなし会」 |
| 11月16日(土) | 午後2時から | 第7回「映像文学館」『森鷗外の恋人 百二十年後の真実』
(テープ&DVD使用) |
| 同 | 午後5時30分から | 『ショパンを探して』(DVD上映) |
| 11月17日(日) | 午後3時30分から | 「おはなし会」 |
| 11月21日(木) | 午後6時30分から | キーワード読書会『ひびく』 |
| 11月24日(日) | 午後2時から | 「わらべうたの会」 |
| 同 | 午後2時から | による「特別講演会」『中央線沿線の文学～太宰治から 村上春樹まで～』 講演者：矢野勝巳氏(元 三鷹市山本有三記念館長) |

第11回 友の会ウィーク

図書館からひろがる！ひろげる！

2019年
期間 11月4日(月・休)～11月24日(日)

場所 葛飾区立中央図書館

DVDコンサート おはなし会 ナイトシアター
朗読 マジックショー 映像文学館 読書会
多読ラブ
かみしばい リコーダー
手袋人形講習会 音楽紙芝居 えほん読み聞かせ
昔語り 昔話

11/24(日) 特別講演会 『中央線沿線の文学風景
～太宰治から村上春樹まで』
午後2時～
矢野勝巳さん 元三鷹市山本有三記念館館長

主催：葛飾図書館友の会
https://www.katsutomo-jmdo.com/ 協力：葛飾区立中央図書館
お問い合わせ 中央図書館事業推進係(友の会担当) 電話：03-3607-9201

「区民のよりどころとなる図書館の未来像を考える」

“あなたのお気に入りの図書館は？”

シンポジウムに友の会から2名がパネラーとして登場

7月14日(日)午後2時から中央図書館で『未来の図書館を考えるシンポジウム』が区の教育委員会・中央図書館・生涯学習課の主催で開催されました。“あなたのお気に入り図書館は…？”とのテーマで、第1部は「区民のよりどころとなる図書館を目指して」と題し、糸賀慶応大学名誉教授が小説と映画の比較から考える読書の意義や、地域の情報拠点としての図書館の重要性などについて、全国の特徴ある図書館の具体例をスライドを利用した基調講演。読書は想像力や思考力を養うに重要だと締めくくりました。



第2部は今年1月に区教育委員会に「区民のよりどころとなる図書館を目指して」という提言をした葛飾区社会教育委員の会議のメンバーによるパネルディスカッション。パネリストには朝野葛飾図書館友の会会長と読み聞かせの会で活躍し、最近友の会の「昔語りの会凛」を立ち上げた山浦敬子さんを含め4名が登場しました。朝野会長は市民のため無料で利用できた最初のボストン図書館の例などや友の会の紹介を、また山浦さんは地域の住民とかかわりのある、そして顔の見える“かかりつけの地区図書館”の重要性などを語りました。

多くの質問もあり、すべての年代層に対応できる図書館の重要性を強調した点が印象的でした。60名あまりが参加した2時間のイベントは終了しました。

「イベントクラブ」が復活 新会員を中心に活動スタート 見学会や講演会の実施・開催など目指す

葛飾図書館友の会に待望の「イベントクラブ」が誕生しました。以前、イベント委員会が存在し、様々な催し物を実施してきましたが、残念ながら委員長の高齢により活動が休止していました。

7月の役員会に立ち上げ趣旨書が提出され、承認されました。その結成目的は各種見学会の実施や講演会の開催などを通し社会教育の機関としての図書館活動の一助となり、メンバーの見識を深めることを目指すこと、また活動内容としてはユニークな図書館や博物館、作家などの記念館の見学、講演会の開催などです。

当面は11月に開催される「第11回葛飾図書館友の会ウィーク」の実施に協力していく活動がスタートになります。既に見学会の開催も企画中のことです。会員の皆様の参加・協力なしには活動できません。会の輪と和を広げるイベントクラブの活躍に期待しましょう。

心のふるさと《昔語り》のグループが誕生

一いま、日本全国に〈語って楽しむ〉運動がひろがっていますー

恒例の「友の会ウィーク」には、幼児や子どもを対象にした各種の《お話》のグループがたくさん登場してきましたが、今回の友の会会員の新しいグループ《昔語りの会凛》は「昔話を語ってみませんか」という、成人を対象にした講演と教室を開設するというユニークなグループです。

講師は「江戸川で聴いた中野ミツさんの昔語り」（瑞木書房）という著書で知られる昔話研究者の野村敬子さんです。野村さんは平成22年、江戸川区立中央図書館で中野ミツさん(新潟県出身)の昔話を聴いて、《昔語り》のすばらしさを再認識し、その普及を改めて志したと著書の中で語られています。新しく誕生したこのグループは講座の視聴はもちろん《自分も語ってみたい》という「語り師」志望の皆さんにも心から参加を呼び掛けています。高齢化が進む葛飾はもちろん日本全体で社会の絆づくりが叫ばれる今日、ぜひ会員の皆さんの参加をお待ちしています。



野村敬子さん

特集 第83回名曲コンサート来場者アンケートからの声

♪夏は海へ、川へ…水辺の音楽でひとときの避暑を♪

第83回のCDコンサートを7月28日(日)に行い、32名のクラシックファンの皆様にお集まりいただきました。当日実施したアンケートの結果、21名の方々に様々なご感想をいただきました。

紙面の都合で、全文掲載できなかったことをお詫びします。12月には、恒例のベートーベン作曲第九交響曲を指揮者と演奏団を精選してお届けします。令和元年を『合唱』で締めくくりましょう。

第1部 「飛び散る水音」 涼しい感じがしました

●ギターの演奏は夏らしくてよかったです。ライオンの口から水が出るのがエジプト由来とは、初耳でした●ピアノ曲が美しい●ギターの良さが心地よく響いて感動しました●中盤より噴水の情景が出て良かった。さすがメンデルスゾーンである。さあ今日も一日頑張るぞ。ありがとう●ピアノで水がはねて音色が良かった。楽しい航海がイメージできた●涼しい感じがしました●とても落ち着いて聴けました●「アルハンブラの思い出」は大好きな曲である。スペインへ行ってアルハンブラ宮殿を見学したので、良く分かります。スペインの曲が2曲もあったので、ありがたく聴き入りました。辻井伸行のピアノがとても素晴らしいです●「静かな海と楽しい航海」の出だしのメロディーが涼やかでよかった●メ

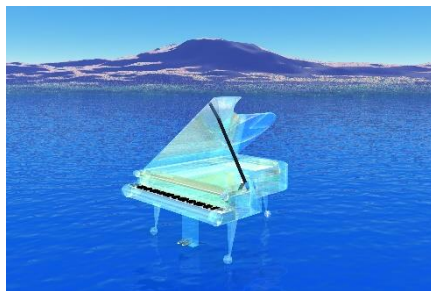
ンデルスゾーンの「静かな海と楽しい航海」は大変美しい曲で楽しめた●マラガ、いい所でした●「アルハンブラの思い出」がとても良かったです。テレビ等でもよく流れる曲ですので印象に残りました●真夏のコンサート、感動的であった。今後も数多くの企画、お願いします!!



第2部 「清涼な流れ」 「モルダウ」に心揺さぶられ

●「動物の謝肉祭」は楽しい曲なので、いつか是非全曲を演奏していただければと思います。暑くなり始めたシーズンに、涼しい部屋で涼しげな曲を聴けて良かったです●モルダウの流れ…「わが祖国」をリクエストします●曲を聴いた感激を思い出して、元気に90歳までいこう。84回以降も聴かせて頂きたい。今回は本当にありがとうございました。いかにもわが祖国、という演奏だったと思う●清涼でした●久しぶりに楽しく聴けました。また参加させていただきます●解説、良かったです●やはり夏は感じられず!●「水上の音楽」は有名曲なので良く耳にしている。素晴らしいオーケストラで聴かせていただいたので、とても素敵でした。やはり夏に聴きたい曲です。楽器と共に演奏者の顔が見えるようです●「白鳥」も大好きな曲の一つで、良くバレエでみたり聴いたりします●「モルダウ」も大好きな曲。初め一滴の水から

始まり、やがて大河になる過程が大好きである●「モルダウ」はやはり心揺さぶられますね●曲の技術的なことは分かりませんが、思い出があり、懐かしく聴かせていただきました●番外の弦楽四重奏曲、知らない曲と思っていたがそうではなく、大変良かった。楽器の音色が素晴らしかった●「モルダウ」が感動的でした。『プラハの春』は歴史的にも大きな出来事であり、それと重なって感慨深く感じました●今日の天気にもふさわしい曲であった!!



第83回コンサートプログラム

第1部 飛び散る水音

- ①「エステ荘の噴水」…(リスト)
- ②「アルハンブラの思い出」…(タレガ)
- ③「入り江のざわめき」…(アルベニス)
- ④「海の嵐」…(ヴィヴァルディ)
- ⑤「静かな海と楽しい航海」…
(メンデルスゾーン)

第2部 清涼な流れ

- ⑥「水上の音楽」…(ヘンデル)
- ⑦「トゥオネラの白鳥」…(シベリウス)
- ⑧「白鳥」…(サンサーンス)
- ⑨「モルダウ」…(スメタナ)

以上9曲をCD演奏しました

◎ 図書館所蔵の音楽資料でプログラムを作り、毎月開催しています(無料)。どうぞお気軽にご鑑賞ください。

初めての試み 親子で英語読み聞かせ講座 ——英語の絵本などをパパ・ママと親しむ—— 多読クラブの「英語多読講座」も毎月開催



7月7日(日)午前10時30分から中央図書館で友の会多読クラブが開催しました。親子8組の参加。

まずは「きらきら星」をみんなで英語で歌いました。自己紹介のあと、ORT (Oxford Reading Tree)の楽しみかたを共有し、ママ、パパが英語の絵本を手に取り、読み聞かせをやってみました。あっという間の45分間でした。

最後に、毎日の暮らしの中に英語の絵本に触れられる環境をつくること、絵を味わうという意識でスタートすれば良いことなどをお話し、図書館

にある本を是非借りていってくださいと締めめの言葉でイベントは終了しました。参加者からは、毎月定期開催してほしい、との声がありました。

多読クラブ主催の「英語多読講座」もこの10月で第10回を数え、区内のみならず区外や千葉県からの参加者もあり、好評です。

	講座日程	時間：10：00～12：00 （各回共通）
第11回	11月9日（土）	第11回葛飾図書館友の会 友の会ウィーク参加イベント 内容：英語多読入門講座「多読コーナー」にある本を楽しみましょう！ 会場：中央図書館 会議室1
第12回	12月8日（日）	内容：「Let's enjoy speaking English! ～Tadoku でプレゼンテーション～」 会場：中央図書館 会議室2

☆☆☆☆☆「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！☆☆☆☆☆

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？ 原則として第3土曜日の午後1時から3時まで中央図書館内で、また友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を右記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、2019年度年会費とご記入下さい。また1口500円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では203円、ATMからでは152円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

入会届はHP (<http://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

お問合わせ先：中央図書館友の会担当者（打越・吉村・白井・川井・盛のみなさん） Tel 03-3607-9201

昭和30年代の子供である。高度成長を実感し始めた昭和35年（この頃からビニール製品が次々登場）よりは近代化？のスピードアップが現在につながっているような感覚がある▼過去の記憶にはバイアスがかかりがちではあるけれど、「昔は良かった（今の子供は可哀そうだ）」の感慨を抱くのは、まずまず幸せな子供時代を送った中高年者だろう。祖父父母同居で、昔話を聞き、節約と手作りを見習い：明治・大正と変わらぬ生活▼昔の方が良かったのだろうか。買い物かごを下げて買い物に行けば量り売りで、煮豆や佃煮は経木に入れられ、菓子や砂糖は紙袋に詰められた。エコだが人件費も安かったのだろう。確かにシンプルでのかで、生活と社会の進歩を信じていた明るさがあつた▼たらいで洗濯、こたつと火鉢だけで暖を取る、まるで向田邦子の『あ・うん』の世界。外は砂利道、足元は下駄の『じやりん子チエ』ちゃん。もう一度やれるか？と言えば、まあサバイバルできる。自信はある▼もっとも、電話もない素朴な暮らしと、格段に進歩した医学や禁煙や福祉の充実した今を比べるに、戻りたいかは微妙だが、一点、強烈に恋しいのはエアコン不要の夏。とりわけ、涼しい涼しい朝の空気なのだった。

（林編集委員）

色えんぴつ